

歌手顕彰活動の現状と課題 -上原敏の事例より-

秩父宮記念スポーツ博物館 井上裕太

〈出発点〉

- ・流行歌は、時間の経過と共に人々の記憶から徐々に忘れられてしまう宿命にある。
- ・その一方で歌手の顕彰活動を行い、次世代までその功績を伝える取り組みは各地で行われているが、その実態は？

〈研究目的〉

- ・歌手・上原敏の歌や功績を伝える顕彰活動に着目することで、歌手顕彰活動の現状と課題を検討する。

### 1. 音楽家の顕彰活動の分類<sup>1</sup>

①恒久的顕彰⇒誰もが常時顕彰できるもの（博物館等での常設的展示、歌碑・モニュメント等）

（1）博物館等の施設での常設的展示



例) 村田英雄記念館（佐賀県唐津市）  
（2014.9.14 撮影）



例) 古賀政男記念館・生家（福岡県大川市）（2014.9.11 撮影）  
生家そのまま移築・復元された事例



例) 春日八郎おもいで館（福島県会津坂下町）（2015.8.2 撮影）  
敷地内にはヒット曲「別れの一本杉」に因み、一本杉が植樹されている。



例) 四大作曲家私設資料館（青森県黒石市）  
（2016.7.30 撮影）  
黒石市出身の4人の作曲家（明本京静、山田栄一、上原げんと、上原賢六）について展示。

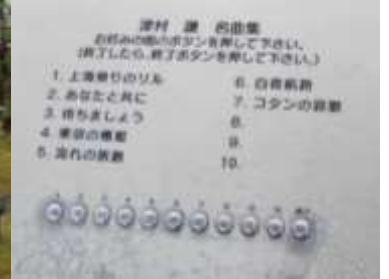
## (2) 歌碑・モニュメント等の設置



例) 渡久地政信顕彰碑 (鹿児島県西郷町)  
(2015.10.24 撮影)  
代表曲「島のブルース」が流れる。



例) 津村謙顕彰碑 (富山県入善町) (2016.3.19 撮影)  
代表曲 7 曲を聴くことが可能。



[特長] 時期を限定せず誰もが音楽家の足跡に触れられる。

見学者が所縁の地を巡ることで、地域と歌手との結び付きを認識できる。

[課題] 維持管理の必要性。更新性の欠如。

### ②定期的顕彰⇒周期的に実施する顕彰のための催事 (音楽祭、カラオケ大会等)

例) フランク永井歌コンクール

毎年、フランク永井の出身地・宮城県大崎市で開催されている。2016 年で 8 回目。  
(「フランク永井歌コンクール」実行委員会の主催による)

例) 能章まつり

山口県防府市で開催される作曲家・大村能章を顕彰するイベント。2016 年で 25 回目。  
カラオケ大会、代表曲を歌うコーナー、ゲストによる歌唱等により構成。  
(大村能章顕彰会の主催による)

[特長] 継続することで、音楽家の功績の風化を防ぐ。

実施頻度が少ないため主催者・参加者の負担を軽減。

[課題] 時間の経過とともに活動が下火に。高齢化、参加者の減少。

### ③一時的顕彰⇒単発的に実施する顕彰のための行事 (博物館等での企画展、継続性のない記念行事)

(1) 博物館等での企画展

例) 三重県総合博物館企画展「植木等と昭和の時代」(2017 年 1 月 21 日～3 月 20 日)

植木等の生誕 90 年・没後 10 年を記念して開催。会期中映画「本日ただいま誕生」上映会を実施予定<sup>2</sup>。

(2) 継続性のない記念行事

例) 田村虎蔵生誕 140 周年顕彰事業 (2014 年)

鳥取県主導のもと行われた作曲家・田村虎蔵生誕 140 年記念事業。下記事業を展開。

- ・童謡・唱歌をテーマとした文化施設での特別展示、
- ・県内 4 箇所での移動パネル展
- ・市民音楽サークルや小学生らの協力のもと計 6 回のコンサート

[特長] インパクトが大きく、広く知らしめることが可能。

[課題] 顕彰が一過性のものになってしまう懸念。

※このほか、音楽家の顕彰を行う団体もあり、上記の活動を主体的に実施する事例もある。

例) 東海林太郎顕彰会、大村能章顕彰会、佐佐木信綱顕彰会 etc...

## 2. 上原敏の事例を取り上げる意味

※上原敏とは？

戦前に活躍した歌手。1908年現在の秋田県大館市に生まれ、大館中学校（現・大館鳳鳴高校）を卒業し、専修大学へ進学後、栄養と育児の会（現・わかもと製菓）へ就職した。少年時代より野球を趣味としており、専修大学では野球部主将も務め、就職後も野球部に所属していた。野球を通じレコード会社の関係者と知り合い、それが縁となり歌手デビューを果たし、歌手として「鴛鴦道中」「妻恋道中」「流転」等のヒット曲を出したが、1943年に召集され、1944年にニューギニア島で戦死したとされている。<sup>3</sup>

①没後70年以上が経過し、上原敏をリアルタイムで聴いていた世代の高齢化。

（歌っている映像も1939年公開の映画「ロッパ歌の都へ行く」で「親恋道中」を歌唱するものしか残されていない）

⇒往時を知る人が減少する中でどのような顕彰が行われているか。

②歌手としての側面のみならず、野球を愛し、戦争に翻弄された濃密な生涯。

⇒歌手としてのみならず人間・上原敏がどのように投影されているか。

## 3. 上原敏の顕彰活動の現状と課題

※上原敏の顕彰団体

⇒「大館上原敏の会」

1980年、設立。上原敏の故郷・秋田県大館市で活動。最盛期には160名近くの会員が在籍したが、2016年現在会員は57名。流転忌、さくら祭り・アメッコ市での歌謡ショー等を開催。

⇒「上原敏の集い」

1976年、上原敏の会（現在は「上原敏の集い」）として設立。東京で活動。最盛期には100名以上の会員が在籍したが、2016年現在、会員は24名。年2回の「上原敏の集い」を開催。

①恒久的顕彰

（1）大館郷土博物館の先人顕彰コーナーにおける常設展示



大館郷土博物館では、上原敏用映画台本1点、SP版レコード7枚、プロマイド2枚、直筆サイン色紙1枚の計11件の上原敏関係資料を収蔵しているが、そのうち上原敏用映画台本1冊、SP版レコード1枚、プロマイド2枚のみ常設的に展示している。

（2）上原敏の展示資料室

製菓店・有限会社島内製菓の2階の一室にあり、関係資料が展示されている。2004年に公開したが、大館上原敏の会会長を務め、資料の収集を行っていた島内富一氏の死去に伴い、現在では一般への公開は行われなくなった。開館当初、展示資料室は新聞記事において以下のように紹介されている。

会社2階の部屋には40枚ほどの上原の写真、鎌倉市の画家が描いた約20枚のポスター、歌詞をした

ためた書、書類や手紙のコピーなどが所狭しと飾ってある。舞台衣装の黒のタキシードは上原夫人から贈られた。20枚近いレコード盤は奈良市の人が寄せてくれた。<sup>4</sup>

現在も、資料室内では開館当初とほぼ同様の状態が保たれている。写真は、少年時代、兵隊さん時代、芸能人時代等、7区分されており、テーマ毎に上原の足跡を辿ることが可能である。また、レコード、ポスター等が整理の上展示されており、資料の種類毎に鑑賞しやすい環境が整えられている。加えて、上原着用のタキシードやサイン等も展示されており、実際に上原の歌手時代の面影に触れることができる。

### (3) 上原敏顕彰碑

1976年に大館市桂城公園内に設立。石材はアルゼンチン産のエメラルドパールを使用。上原の足跡と代表曲「妻恋道中」の歌詞が刻まれている。



## ② 定期的顕彰

### (1) 流転忌

毎年、上原敏の命日である7月29日に慰霊祭を開催。碑前に花束や地酒、本人の写真などを供え、代表曲「流転」と「裏町人生」を音楽テープに合わせて合唱<sup>5</sup>する。上原の代表曲を歌う歌謡ショーも併せて開催。



### (2) 上原敏の集い

年2回都内にて開催。上原の曲（もしくは上原敏の会会長を務めていた青葉笙子の楽曲）を歌い、偲ぶ。（会員の減少に伴い、年4回の開催から2回に）

## ③ 一時的顕彰

- ・上原敏の時代展（大館上原敏の会主催）…1997年5月16日～18日、大館市内の施設で開催。  
⇒「会場には（中略）多くのファンが集まり、一時は身動きもとれないほど。全国から集められた写真や（中略）挿絵画家・植木金矢氏によるヒット曲のオリジナル画など、当時の流行歌の世界を物語る資料の一つ一つをていねいに鑑賞していた。（中略）蓄音機によるレコード演奏では、当時の上原敏の声が鮮明によみがえり、来場者らの感動を誘っていた。（中略）「唄の愛唱会」も行われ、多くのファンらが当時のヒット曲を合唱していた。」<sup>6</sup>
- ・第2回上原敏の時代展（大館上原敏の会主催）…2000年7月28日・29日、大館市内の施設で開催。  
⇒大館上原敏の会創立20周年を記念して開催。愛用のタキシード、写真、ポスター、戦地からの手紙等、約100点が展示された他、会員が上原の楽曲を披露する「上原敏歌謡ビッグショー」を実施<sup>7</sup>。
- ・「大中・鳳鳴人物展」（大館鳳鳴高校創立110周年記念特別企画）…2008年9月27日・28日、秋田市内の施設で開催。  
⇒大館鳳鳴高校が旧制大館中学時代から現在までに輩出した各界の著名人の紹介や所縁の品、OBから提供された昭和初期の卒業証書や生徒手帳を中心に展示した展覧会。この展覧会では、卒業生の一人として上原が取り上げられ、上原の関係資料では、島内氏の収集した在学中の写真のほか、女優で映画監督の田中絹代とのツーショット写真、愛用のタキシードが展示された<sup>8</sup>。上原を郷土出身の先人としてのみならず、出身校の卒業生という視点から扱うことで、生徒が上原のことを容易に理解する工夫がなされた。

- ・「上原敏を歌い継ぐ」（国民文化祭との連動イベント）…2014年6月15日、秋田市内の施設で開催。  
⇒上原の生い立ちや功績などの紹介を交え、大館上原敏の会による上原の代表曲の歌唱。
- ・上原敏追悼展（50回忌記念・上原敏の会主催）…1993年7月17日～19日、浅草公会堂で開催。  
⇒上原の写真、原譜等、約500点を展示<sup>9</sup>。
- ・生誕百年記念展（上原敏の会主催）…2008年5月20日～23日、浅草公会堂で開催。  
⇒上原の写真の他、上原の楽曲をイメージした絵画を展示。<sup>10</sup>
- ・「太平洋に散った人気歌手～上原敏没後70年記念展～」（専修大学主催）…2014年10月17日～26日、専修大学で開催。  
⇒上原敏の生涯を戦争という側面から取り上げるとともに、専修大学野球部を支えた野球人としての側面も紹介。歌手としての側面のみならず、戦争、野球という切り口からも展示を実施。展示コーナーは「松本力治、大館に生まれる」「専修大学へ入学、野球部員として活躍」「上原敏デビュー、一躍人気歌手へ」「戦地への慰問、そして戦場へ」の4つに分けられており、上原の生涯を追いながらも、野球、戦争という視点を盛り込み、多角的に当時の時代を投影させながら上原の実像を浮かび上がらせる展示に。また、会期中にはイベントが開催され、上原が実際に執筆した軍事郵便を取り上げ、軍事郵便に関する歴史学の講演を実施。そのほか、上原に関する著作を上梓した作家による講演、上原敏の集いによる合唱も行われた。<sup>11</sup>

#### ※その他

- ・地元商工会が中心となり、大館市の町商店街を活気づけるべく、上原敏の楽曲を午前9時、正午、午後5時の一日3回1分ずつ流す試み（2005年）  
⇒近隣からの苦情により中止。

- ・行政とのかかわり（2011年大館市議会における質疑  
質問

「先人顕彰にスポットを当てた観光の目玉にということではありますが、（中略）特に今回は戦前戦中の流行歌手であった上原敏について取り上げていきたいと思っております。桂城公園にもその碑がありますし、現在、大館市の菓子店の2階に上原敏の資料室があります。かつて、それを資料収集した島内氏が亡くなり、その後の活動が若干弱くなっておるように思いますが、せっかくのあれだけの資料をもっと活用し、大館の先人にスポットを当てて、こんな人たちが大館にいたということを前面に出し、私たちが元気ももらい、そして大館に来た人たちにそのことを紹介するということがある意味では観光にも大いにつながるのではないかと考えますので、そのことについてお尋ねをいたします。」

それに対する当時の大館市長・小畑元氏の回答

「議員御案内の上原敏につきましては、貴重な資料が島内菓子店に保管されているとのことですので、郷土博物館での展示等に活用させていただき、多くの市民や観光客の皆様を紹介したいと考えております。」

- ⇒上原の資料の活用に関する質問に対し、市長は郷土博物館で活用する方向性を示したが、現在大館郷土博物館における上原敏の展示資料は4点のみ。

※上原敏の顕彰活動の現状と課題

- ①大館、東京それぞれにおいて、積極的に顕彰活動が行われている。歌謡ショーや展覧会を開催することで、上原の楽曲を知る人々の琴線に触れ、昔を懐かしむきっかけ作りの場としての役割を担っている。  
⇒一方で、上原の楽曲を知る人々の高齢化、参加者の減少、地元との連携・理解の促進が課題に。
- ②高校や大学等の教育機関において上原の資料を展示する機会の増加。  
⇒若い世代への継承も試みられている。

4. まとめ

- ・上原敏を知る世代が高齢化する中、純粋に歌のみで顕彰活動を次世代へ継承することは困難。
- ・近年は戦争に関する上原の記事も見られるため、その側面にも着目する必要性が求められる。
- ・地元の理解を得ることの重要性。

	記事の内容			
	楽曲	顕彰活動	戦争	その他
1960年～1969年	4		1	
1970年～1979年	9		1	1
1980年～1989年	4	2	2	
1990年～1999年	3	3		
2000年～2009年	1	7		
2010年～2016年		2	1	3

※主要紙（朝日・毎日・読売）における  
1960年～2016年の上原敏関係記事掲載件数

※次世代へ継承するための案

- ①地域住民が郷土の音楽家顕彰に参画できる体制を整え、教育機関における顕彰活動を推進する。



例) 清水みなの部屋（静岡県浜松市立波佐見小学校内）（2013.9.6 撮影）

⇒静岡県浜松市出身で、「かえり船」「森の水車」「雪の渡り鳥」等のヒット曲を輩出した昭和を代表する作詞家・清水みなの所縁の資料を展示している清水みなの部屋は地元小学校内に設置されており、一般に向けた公開の他、児童への卒業生の紹介という意味合いも有している。清水みなの部屋は、清水没後 PTA や地元の自治会から顕彰の声が上がったのに加え、小学校でも空き教室の有効活用の一環として顕彰スペースの設置が検討され、1989年に開館した<sup>12)</sup>。小学校内に流行歌に携わる音楽家の顕彰スペースを設けることで、次世代にも音楽家の遺した流行歌や功績を伝承できるという利点がある。

②音楽のみならず、それ以外の観点からも音楽家を捉え、顕彰する。



例) 坂本九思い出記念館 (北海道栗山町) (2015.10.18 撮影)

⇒「社会福祉法人栗山ゆりの会」が運営。坂本九が生前、北海道内で社会福祉関連の情報番組『ふれあい広場・サンデー九』に出演したことから、福祉の視点を中心に展示がなされている。

③地域と音楽家のつながりを目に見える形で表記する。

例) 秋田市・東海林太郎マップ<sup>13</sup> (東海林太郎顕彰会作成)

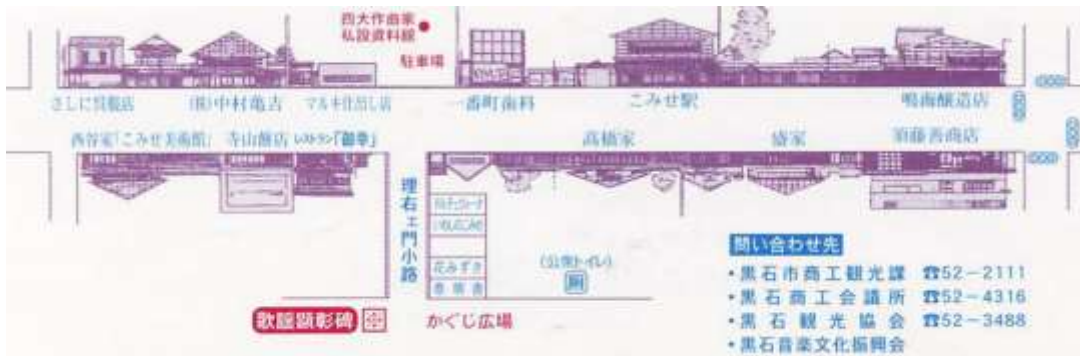
⇒東海林太郎音楽館や胸像のみならず、東海林太郎が少年時代に登った松、実家の石灯籠、生家跡等、細かい情報を掲載。



例) 能章ゆかりの地マップ<sup>14</sup> (大村能章顕彰会作成)

⇒防府市内の大村能章ゆかりの地を紹介。  
防府市観光協会のホームページでも、作曲家大村能章ゆかりの観光コースを掲載。





例) 黒石市・ゆかりの四大作曲家顕彰マップ (社団法人・黒石観光協会作成)

⇒黒石市出身の4人の作曲家(明本京静、山田栄一、上原げんと、上原賢六)の博物館、顕彰碑の位置を示している。街歩きマップにも掲載し、まちなか探訪ツアーのコースにも組み込まれており、観光資源としても活用されている。

◎歌手としての魅力を発信するのみならず、多様な観点から音楽家を映し出し、新たに興味を持つ人々を獲得する必要。

◎地域の人々や学校、或いは行政等との協力のもと、持続可能な顕彰の模索。

上原敏は、顕彰碑が建設される等、地域住民の努力により今なお郷土の歌手として地域から愛されており、顕彰活動は活発に行われているが、上原を知る世代が高齢化する中、今後も純粋に歌のみで顕彰活動を次世代へ継承することは困難である。近年は上原と戦争をめぐる視点に着目されることも多くなっており、今後も顕彰を続けるためには、その側面にも着目する必要性が求められる。また、母校や郷土においてもゆかりの人物として焦点を当てることで、新たな視点の開拓にも繋がる。今後は地元の人々や行政との理解・連携を得ながら、観光資源として活用することも選択肢の一つである。

1 拙稿 2015 「音楽家顕彰活動における博物館の関わり」『国学院雑誌』115(5) 国学院大学

2 三重県総合博物館 <http://www.uht.jp/>

3 大館市史編さん委員会編 1981『大館市史』4 大館市

4 2005.08.19 「戦争に散った人生たどる 大館出身・歌手の上原敏 大館の島内さん資料を集め展示 写真・衣装・ポスター…」『朝日新聞』秋田朝刊 pp.29

5 2014.07.30 「上原敏没後70周年 代表曲合唱し冥福祈る 「顕彰碑守り、業績後世に」 東京の大学院生も参加 出身の大館市で慰霊祭」『北鹿新聞』朝刊 pp.9

6 1997.05.17 「よみがえる「上原敏」その時代展 「長年の夢がかなった」 往年のファン多数来場 蓄音機演奏などに人気」『北鹿新聞』朝刊

7 2000.07.29 「人気歌手・上原敏しのび、ファンら熱唱 大館で「時代展」/秋田」『朝日新聞』秋田朝刊 pp.31

8 2008.09.28 「110周年記念 上原敏など12人紹介=写真やゆかりの品々並べ=いとくSCで大中・鳳鳴高人物展始まる」『おおだて新報』朝刊 pp.7

9 1993.07.18 「雑記帳：戦死した上原敏さんの50回忌記念で追悼展」『毎日新聞』東京朝刊 pp.27

10 2008.05.23 「昭和の人気歌手「上原敏」記念展 浅草、きょうまで」『朝日新聞』東京朝刊 pp.31

11 専修大学 2014 「太平洋に散った人気歌手～上原敏 没後70年記念展～」リーフレット 専修大学

12 浜松市立伊佐見小学校 1989 『熱き思いで浜名湖を…… 清水みのるの部屋 開設記念集』浜松市立伊佐見小学校

13 東海林太郎音楽館 <http://www.donpu.net/tarotya.htm>

14 作曲家大村能章ゆかりのコース <http://www.kanko-hofu.gr.jp/course/oomuranoushou>